

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	いわてけんりつもりおかだいいち				②所在都道府県	岩手県
27～31	①学校名	岩手県立盛岡第一高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	1年…普通・理数科7 2年…普通科(文系)3, (理系)3・理数科1 3年…普通科(文系)3, (理系)3・理数科1	
普通科	284	240	248		772		
理数科	-	0	0		0		
⑥研究開発構想名	イーハトーブ世界（万人の幸福を希求するグローバル社会）の開拓者の育成						
⑦研究開発の概要	地域のグローバル課題を題材とした課題研究を、総合学習を活用し、学年の進行に応じて段階的に構成することにより、グローバル・リーダーが備えるべき素養を涵養するプログラムを開発する。それと並行して、既存の科目の発展的再構成を中心に、教育活動全体を通じてこれを下支えすることで得られる成果の最大化をはかる。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p><目的> グローバル課題を発見し、原因を探り、解決法を探究・議論し、その成果を本国のみならず、世界のパイロットモデルとして発信する一連の取組みを通して、21世紀の理想的なグローバル社会を開拓し得る人材の育成を目指す。</p> <p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル課題の解決法を探究し、その成果を世界へ向けて発信するとともに主体的に課題解決へ向けた実践を行う姿勢を養う。 ・世界の諸国・諸地域の実態と抱える課題への関心を高めるとともに、論理的思考力、課題解決能力、積極性、行動力を養い、主体的な学びを醸成する。 ・他者との相互理解・協業に必要な傾聴力、共感力、質問力、説得力を育成し、自分の考えを分かりやすくかつ説得的に伝える力を身に付ける。 ・上記3つの目標を十全に達成するに足る実践的英語力を習得する。 <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は平成26年に創立134周年を迎えた全日制普通高校で理数科を併設する。ほぼ全員が大学に進学しており、その多くはスーパーグローバル大学に進学している。開校以来国内外で活躍する人材を数多く輩出してきた。文武両道を校是とし、部活動においても全国大会での活躍が目立つ。但し日々の授業や部活動に追われ、グローバルな視点から自らが生きる社会を学ぶための機会が十分に得られているとは言い難い。一方で約半数の生徒は留学や国際的業務への就職を希望するという現状にあり、こうしたニーズに応えるためにも、地域社会はもとより国内外でグローバル世界を牽引するグローバル・リーダーに必要な資質を涵養し得る教育プログラム開発は急務となる。</p> <p>本研究開発は、2段階に大別される課題研究を学年の進行に応じて発展的に構成するとともに、教育活動全体を通してそれを支える方途を開発するという3つの研究開発単位を有機的に関連付けていくことにより、アウトカムを効果的かつ効率的に最大化し得るとする仮説に基づいて構想・構成されている。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>ホームページ上で取組内容や研究成果を報告するほか、生徒の課題研究は、課題研究発表会、県内教育団体・国際交流協会主催のセミナー等で成果を発表し普及を図る。</p>					

<p style="text-align: center;">⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 1 学年では「岩手発 グローバル課題の探究」をテーマに、2 年次に SG 課題研究Ⅱで取組む6つのカテゴリー(下掲)に関連した岩手県が抱えるグローバル課題の実態把握とその解決に向けた方向性についてフィールドワークを行い、探究的学習の素地を養うとともに基礎的な手段や手法を学ぶ(SG 課題研究Ⅰ)。2 学年では岩手県が抱える様々なグローバル課題について解決策を追究するとともに、具体的な行動へと移す能力を高めるため、喫緊かつ普遍性の高い6つのカテゴリー(「21世紀型地方都市の探究」「ローカルな魅力を活かしたグローバル観光モデルの探究」「"Made in Iwate"ブランドの確立へ向けた探究」「グローバルスタンダード教育モデルの探究」「グローバルな知の拠点の創造へ向けた探究」「世界を支える地域医療の探究」)を設定し、外部機関と一層密に連携し探究的学習に取り組む(SG 課題研究Ⅱ)。3 学年では一連の取組の集大成として、研究成果について英語を活用し広範に発信する方法を探究する(SG 課題研究Ⅲ)。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 「SG 課題研究Ⅰ」では岩手県内および西日本(研修旅行を活用)で行うフィールドワークを中心としながら、その前後に外部講師による講義、プレゼンテーション、ディスカッションを配置し、特に課題発見能力、コミュニケーション能力の育成に注力した探究的学習を構成する。「SG 課題研究Ⅱ」は6分野のテーマでグループ毎に文理両面からの探究を行い、外部機関との密な連携の下、論文作成、研究発表を行う。その過程において特に意欲のある生徒を対象に世界各地で実地調査や発表を行い、その成果は続く「SG 課題研究Ⅲ」において、外国人教員の指導を受けつつ日本語と英語の報告書にまとめ発表する。なお平成27年度の海外研修はアメリカのボストンで実施予定である。 一連の取組の成否は、発表会での相互評価や岩手大学等の第三者による客観的評価及び事業実施前と実施後の生徒、教員等の意識調査によりその変容を比較し検証する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 ア 国際レベルで情報の発信と受容ができる実践的英語力を向上させる指導法の研究 1 学年を対象とした「コミュニケーション英語Ⅰ」について、特に《四領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導を行う》ことに重点を置き、実践的英語力育成のための指導法(外国人講師との協同等)と教材を開発する。一連の取組の成果はGTEC(平成27年度以降毎年実施予定)等の外部試験を活用しながら検証する。 イ 社会課題に対する深い関心と高度な専門性を育成する指導法の研究 1 学年を対象とした「現代社会」の授業を通して社会の諸課題に対する関心を喚起し、望ましい解決の在り方について主体的に探究・考察する力を養成するための指導法の研究と教材の開発を行う。取組の成否はルーブリック等で検証する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 ア 海外派遣研修「白鷺の翼」(昭和55年から実施している海外研修、1・2年生対象) 海外の大学、国際機関、研究施設等の見学やフィールドワーク、同世代の生徒とディスカッションを主な内容とした研修を学校独自予算で実施する。 イ グローバル研究会(課題研究をより深化させるための課外活動の立ち上げ) ウ 外国人高校生の短期招致(昭和57年からの実施、これまで232名を受入れ) エ SGH、SSH 実践校との合同発表会 オ 英語部の活動充実 カ 外国大学進学研修会(教員による外国大学進学推進のための検討会の立ち上げ)</p>
<p style="text-align: center;">⑨ 其 他 特 記 事 項</p>	<p>特になし</p>